

長途をあゆみまいりたる、ありがたき事也と、心中に思はれて略下

〔吾妻鏡〕文治六年元年建久三月十日甲子、大河次郎兼任於從軍者、悉被誅戮之後、獨迫進退、歷ケル華山

千福、山本等、越龜山、出于栗原寺、爰兼任著錦脛巾、帶金作太刀之間、樵夫等成怪略下

〔物具裝束抄〕一馬副事略中

冠卷纒略中 藁脛巾略中

一手振事略中

冠卷纒略中 藁脛巾 舌地

一小舍人童事

狩衣上下略 脛巾城外之時用

一車副事

冠略中 藁脛巾

〔太平記〕五、大塔宮熊野落事

此君王中護親略 イツ習ハセ給ヒタル御事ナラテドモ、怪シダナル單皮カ脚巾キ草鞋ヲ召テ、少シモ草

臥タル御氣色モナク略下

〔宗五大草紙〕下、公方様御成の様體の事

一、公方様御小者も、はゞき脚半は、十月五日内野の御經へ御成より、三月三日まで被用候、雨ふ

り道わろく候へば、走衆も御小者も脚半をばとられ候、大名の内衆同前、又大口直垂を著候時は、

誰も脚半をし候、總じて赤すねの見え候事、尾籠なる事にて候、

〔走衆故實〕一拾月五日より三月三日までは、きやはんも、はゞきををする、御きやうより以前はせ

ず、たとひする時なれども、御道に川あり、雨ふりてつよくしるければ、きやはんも、はゞきをと